

Hydro Modern Chemistry

HYMO



2021

HYMO CSR Report

3 トップメッセージ

4 ハイモについて

会社概要
事業内容
事業所
研究開発
品質サービス
売上高・従業員数

5 ハイモのCSR活動

CSR推進室
ISO認証取得および主なCSR活動

6 お客様への責任

ハイモの技術と製品

ディスパージョンポリマー
エマルジョンポリマー
水処理用高分子凝集剤
製紙用高分子薬剤
法面緑化用高分子薬剤
泥土改質剤
粉塵低減剤
収束剤
電気泳動ゲル

9 環境への責任

マテリアルバランス
環境関連データ
2020年度の目標と実績

13 社会・地域・従業員への責任

一人ひとりができる対策を確実に
労働災害防止への取り組み
防災・避難訓練(2020年度)
安全衛生活動、災害への対応
特定事業者としての取り組み
有給休暇の取得状況
育児休業制度、育児短時間勤務制度等
ハラスメント防止に関する取り組み

編集方針

本レポートの作成にあたっては、「環境省・環境報告ガイドライン」等を参考としました。

※本レポートの作成にあたって、集計方法の見直しなどを行ったため、昨年の報告書と数値が異なる場合があります。

報告対象範囲

対象期間：2020年4月～2021年3月（2021年9月発行）

※一部期間外の内容も含んでいます。

お問い合わせ先

ハイモ株式会社 CSR推進室

〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目4番1号 TEL: 03-6212-3838 FAX: 03-6212-3848



企業としての事業活動を通して サステナブルな社会の実現を目指します

ハイモは、2007年から環境、安全ならびに法令順守に関して取り組んでおります。その成果を2008年より「環境安全報告書」として発刊し、版を重ねて「HYMO CSR Report」として14年間皆様へお届けしてまいりました。昨今、自然災害の激甚化や新規感染症の蔓延に見られる脅威の増大に鑑み持続可能な社会を目指す流れが加速し、その実現に向けて企業が果たすべき責任も一層大きなものとなっています。

当社は、CSR(企業の社会的責任)活動として取り組んでいる「お客様への責任」、「環境への責任」、「社会・地域・従業員への責任」等での各種項目を通じてサステナブルな社会の実現に貢献したいと考えています。

また、CO₂の削減に向けて特定事業者としての義務を果たすとともにエネルギーロス改善に積極的に努めます。加えて、従業員の健康維持や職場環境の改善向上についても、細心の注意を払います。

本年もCSR活動の取り組みをまとめた15版目の「2021 HYMO CSR Report」をお届け致します。ご高覧いただき今後とも皆様のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長 望月 義之

ハイモについて

■ 会社概要

商号	ハイモ株式会社
所在地	東京都千代田区丸の内 3丁目4番1号
設立	1961年4月28日
資本金	281,968,500円

■ 事業内容

- 水処理用高分子凝集剤の製造販売
- 製紙用薬剤の製造販売
- 土木用薬剤の製造販売
- 生化学分析用ゲルの製造販売

■ 事業所

- 本社（東京）
- 支店（大阪）
- 営業所（札幌、仙台、富士、名古屋、広島、福岡）
- 工場（青森、神奈川、山口、福岡）
- 研究センター（神奈川）
- テクノセンター（神奈川）

■ 研究開発



技術戦略

「水とニュー化学」のテーマで、地球環境に優しい製法と製品を開発してきました。さらにCSR活動を推進するために、法適合と製品の安全に取り組んでいます。強力な知的財産戦略により、お客様に安心して使用していただける独創的技術を提供しています。

製品設計と機能の発掘

高度の解析技術と合成技術により、高分子の構造設計から機能の発掘へと展開し、製造法の確立に繋がります。

製品評価と使用技術の提案

先進的な機能評価技術により製品の機能を突き詰め、お客様へ最適な使用方法を提案し、新しい製品開発へ展開しています。

■ 品質サービス



生産体制

ISO9001とISO14001を取得し、最新の技術システムと環境保全体制の下で製造しています。また4工場による生産体制を構築し、大規模災害からのリスク回避を図っています。

物流体制

タンクローリー、コンテナ輸送等、お客様の受け入れ体制に合わせた輸送形態で製品を納入しています。また、輸送・納入時の無事故を最優先とした物流体制を整えています。

品質管理

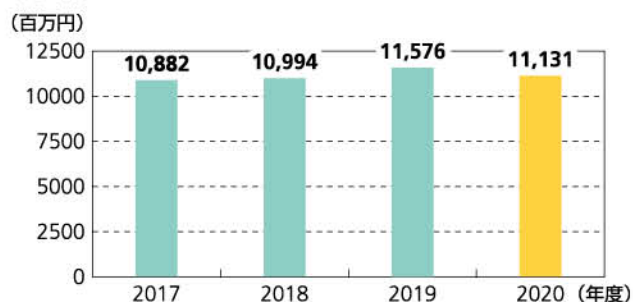
万全の品質管理を行うことで、お客様に満足していただける製品のご提供が可能になります。確かな品質を維持するために、様々な規格や基準を設けています。

情報公開

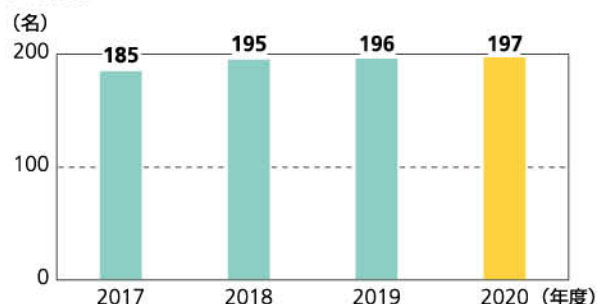
化学製品を扱う者として、社会が求める情報を積極的に開示しています。レスポンシブル・ケア(RC)の理念に基づき、社会との対話を図りながら、社業に反映させています。

■ 売上高・従業員数

■ 売上高



■ 従業員数



ハイモのCSR活動

CSR推進室を設置し、環境・安全および法令遵守に関わるさまざまな活動に取り組んでいます。



社会に必要とされる企業として

CSR推進室

当社では、2007年に全社を統括するRC^{*1}の推進部署として「RC推進室」を発足させ、環境や安全衛生、法令の遵守などに関わる活動に取り組んできました。

近年企業の社会的責任(CSR^{*2})の重要性が高まるなか、2011年からRC推進室を「CSR推進室」に改称して、社会の一員としての役割をより一層担うことができる会社を目指し、

機能強化を図りました。これにより社内における環境や健康安全に関わる管理だけでなく、会社活動が社会に与える影響に対しても責任を持って推進していく体制となりました。

また、経営層で構成される「CSR委員会」や事業所毎の安全衛生委員会とも情報共有・相互連携を図って、活動のレベルアップに取り組んでいます。



品質・環境の継続的改善と法規制・社会への対応強化を目指します

ISO認証取得および主なCSR活動

コンプライアンスへの取り組み

CSR推進室では、2011年から、社員の意識・知識の向上を目的として、CSR研修会や社内報を通じた啓発活動を行っています。2020年度は、コロナ禍の影響で集合研修の実施が難しい状況でしたが、各人がパソコン・スマホ等を用いて学習する「eラーニング」によるコンプライアンス研修を全従業員が受講しました。また、2017年より経営層で構成される「CSR委員会」主導にてコンプライアンス体制の再構築を開始、組織体制の整備、社内教育の充実化などを進めるとともに、新規の社内規程「コンプライアンス規程」や、30箇条からなる具体的な行動の規範「行動基準」といった、コンプライアンス実践の基盤となる文書を制定しました。2020年度には、これらの文書の要点をまとめた小冊子「コンプライアンス・ハンドブック」を発行し、全従業員への配付を行い、遵守すべき事柄の浸透を図っています。



品質・環境への取り組み [ISO9001・ISO14001]

品質方針に基づき、常に品質改善と顧客満足の向上に取り組んでいます。1998年に神奈川工場で品質ISO9001の認証を取得し、その後、生産部門の全工場、開発部門、営業部門にも認証範囲を順次拡大しました。

環境ISO14001については、2002年に神奈川工場と山口工場が認証取得し、2004年に青森工場にも取得拡大しました。環境方針を基に生産部門全体で環境管理プログラム計画書を策定し、環境負荷・環境リスクの低減を行っています。2015年にはISO規格が全面改訂され、実効性をより強化した内容に刷新されました。当社でも、品質・環境ISOともに新規格に移行し、規格改訂のメリットを活かせる体制づくりを行っています。



国内外法令への対応

全てのものは化学物質で構成されており、我々の生活を便利にしている一方で、労働環境・環境・消費活動を経由して様々な経路で暴露するリスクがあります。現在、日本では化学物質の全ライフサイクル(製造から廃棄まで)にわたり暴露経路やライフサイクルの段階に応じてきめ細かい法規制がしかれています。特に商品の提供においては、グローバル化を背景に、米国TSCA、欧州REACH規制、中国新規化学物質環境管理弁法、危

険化学品安全管理条例など様々な法律により、化学物質が管理されています。当社は化学品メーカーとして国内外の登録化学物質リストおよび法令の改正に適切な対応をとり、当社従業員の安全を確保するとともに、迅速にお客様に対する責任を果たすため、新規に法令情報システムや社外データベースを導入しました。日本を含め関係する各国の化学品規制の最新の状況や動向の情報収集・解析を常時行っています。

用語集

- ^{*1} RC : Responsible Careの略。化学物質を取り扱う企業が、開発から廃棄までのライフサイクルにわたり環境・安全衛生について行う自主管理活動。
^{*2} CSR : Corporate Social Responsibilityの略。企業が利益の追求だけでなく、社会に対して与える影響に責任を持ち意思決定すること。

お客様への責任

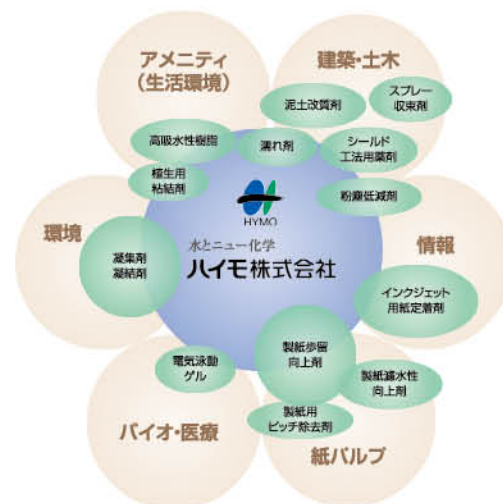
ハイモの技術と製品

水溶性高分子は環境にやさしい素材として世界的に注目を集めています。
ハイモはこれまで「環境」「エネルギー」「健康」をキーワードに
高度な高分子設計技術を用い、環境負荷の低減、生産性の向上に挑戦してきました。



多くの分野で利用される ハイモの製品群

当社はこれまで多様な原料を用い、優れた機能を有する環境にやさしい水溶性高分子を数多く開発し、現在も社会の広い分野で利用されています。産業界においては廃水処理、製紙プロセス、土木建設プロセスを中心とする凝集剤（ハイモロック）として、また医療分野においては電気泳動ゲルとして、更に、私たちに身近なところにおいてはインクジェット用紙の品質向上あるいは上下水道の汚泥脱水用凝集剤として、お客様の環境負荷低減、省資源化、リサイクルの推進等に役立っています。ここでは、環境に配慮した当社製品群をいくつかご紹介します。



環境に優しい高濃度水溶性ポリマー

ディスパーションポリマー

世界各国で使用されている特殊製法によるディスパーションポリマーは、当社で開発、製法が確立されました。このオイルフリー型の環境にやさしいポリマーは今後も数多くの新しい分野でその利用が期待されています。



水に素早く分散し、溶解する。



高機能型水溶性ポリマー

エマルジョンポリマー

高分子凝集剤の形態の主流である粉末製品に対し、特殊製法を取り入れ構造をコントロールした高機能型エマルジョンポリマーにより、使用量の低減、効果の向上を可能にし、環境負荷低減に貢献しています。



多くの分野で活躍 水溶性高分子の機能を活かす

これまで当社の開発した水溶性高分子は産業廃水処理における高分子凝集剤として発展してきました。当社は水溶性高分子が水中に懸濁する物質を集める凝集機能以外にも多くの機能を持つことに注目し、近年様々な分野への展開を積極的に進め、省資源化、生産効率の向上、安全性の向上に寄与する製品を提供しています。

■ 水溶性高分子とその応用

機能	用途
集める・沈める・浮かす	凝結剤・凝集剤
質を変える・接着させる	泥土改質剤・土壌改質剤
固める	固化剤
増粘させる・分散(減粘)させる	増粘剤・流動化剤・分散剤
定着させる	インクジェット定着剤
水にぬれ易くする	濡れ剤・親水化剤
収束させる・吹き付ける	収束剤・粉塵低減剤
吸水させる	吸水剤
展開させる・分離させる	電気泳動ゲル・イオン交換樹脂

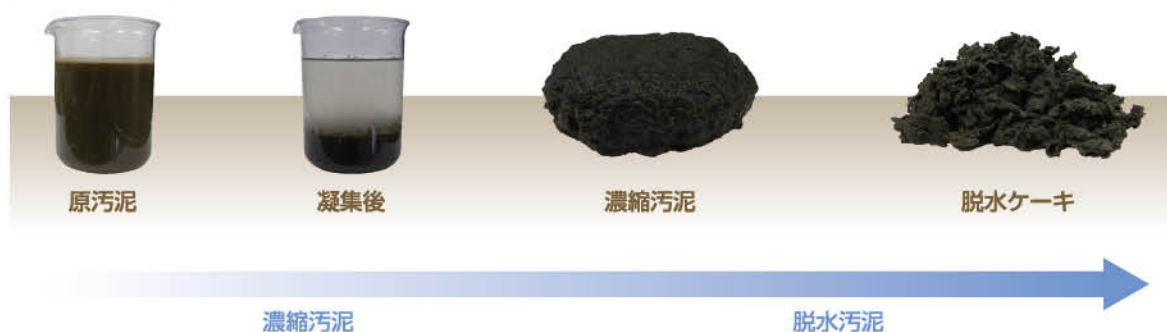


きれいな水をつくり廃棄物を削減する

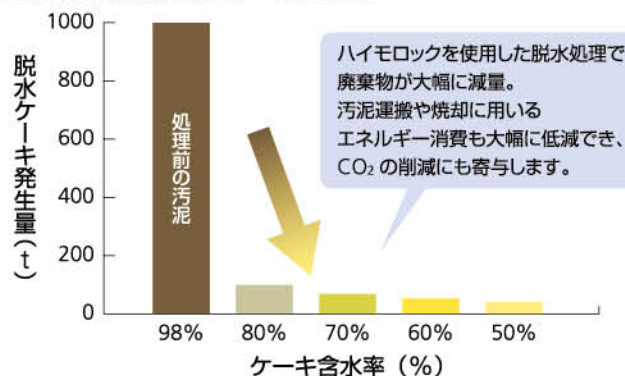
水処理用高分子凝集剤

廃水処理用の高分子凝集剤(ハイモロック)は一般産業廃水、上下水道処理の処理薬剤として長い間使用されてきました。使用した水を効率よく再利用することは省資源、省エネルギーの観点から重要なテーマであり、最終処分廃棄物の減少はエネルギー消費、CO₂削減に大きく寄与します。ハイモはあらゆる廃水に迅速に、的確に対応するため、全国各地の廃水、汚泥を採取、最適な薬剤と使用方法を提案しています。

■ 下水処理場で発生する汚泥の凝集脱水処理工程



■ 脱水処理後の廃棄物（ケーキ）発生量



高品質の紙づくりとリサイクルに貢献

製紙用高分子薬剤

紙は人類の歴史と共に進化しており、現代社会にはなくてはならない存在です。製紙産業は、「森林」「紙」「エネルギー」を上手く循環させて、資源を有効に活用している産業です。日本国内の製紙会社における古紙の利用率は、2017年には64.1%に達しており、高水準で推移しています。現在、新聞用紙原料では75%程度、段ボール原料では殆どが古紙です。その古紙に混在する異物やインク等を取り除き、繊維だけを取り出し、古紙パルプとして再生する高度な技術が求められています。更に、製紙会社では、用水原単位の削減、環境規制への確実

な対応の推進、省資源、省エネルギーへの取り組みが求められ、地球環境保護の為の課題は多岐にわたっています。

当社では、このような課題の中から、具体的に古紙原料使用による短繊維パルプのワイヤー上での歩留率向上及び乾燥性向上を目的に歩留向上剤や濾水性向上剤を提供し、省資源や省エネルギーに寄与しています。また、古紙原料から持ち込まれる糊やテープの粘着成分、ピッチ成分を抑制する水溶性高分子薬剤を開発し、安定した抄造環境と高品質の紙質維持に貢献しています。



地域植生の回復

法面緑化用高分子薬剤

ダムや道路工事、開墾建設工事によって、法面^{*1}の地面や岩は風化され、降雨によって多くの土砂が流出、周辺の環境は大きく破壊されます。このような環境下では早く植物が地表を覆い、根を張り地盤を固める必要があります。しかし、ここに植物の種を蒔くだけでは十分とはいえず、種は素早くしっかりと斜面に固定される必要があります。当社では工事で発生した廃棄物の木材や植物の根をチップ化

し、現地の土を再利用したうえで、水溶性高分子を添加し、団粒化^{*2}させます。法面に吹付けた後は土の湿度・水分を保ち、斜面に強く長期にわたって接着効果を維持することによって、植物種子に良好な緑化基盤環境を作ることが可能となります。このように現地の土に含まれる種子を利用することで、他の地域の植物持ち込みを防ぎながら廃棄物の有効利用が可能となり、地域植生回復に役立っています。

お客様への責任

ハイモの技術と製品



作業の効率化に貢献

泥土改質剤

土木工事や災害現場に発生した多量の泥土は非常に高い含水率と流動性を示し、除去作業やその後の運搬において取り扱いが困難となります。更に処分の際、泥土流失などによる周辺への環境汚染を引き起こす危険性があります。

このような流動性の高い泥土に泥土改質剤を加え、かき混ぜることで、泥土は瞬時に団粒化現象を示し、取り扱い、運搬移動が容易となり環境汚染の発生を未然に防止できます。



安全な作業環境づくりに貢献

粉塵低減剤

トンネル工事の代表的工法にNATM工法があります。日本においても大型トンネル掘削の標準工法として施行され、あわせてコンクリート吹付工法も進歩をとげてきました。しかし、吹付時に発生する大量の粉塵について作業者の健康、安

全作業に課題を残してきました。

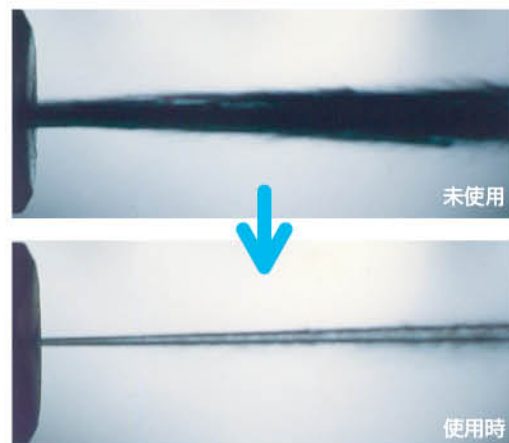
ハイモは長年培った水溶性高分子技術をもとに高性能の吹付コンクリート用の粉塵低減剤を開発、快適な作業環境の確保と経済的な工事の推進に活用されています。



アスベストの除去作業にも活躍

収束剤

水溶性高分子を希釈した水溶液は僅かながら粘性を示します。この性質を利用し、この粘性溶液を高圧条件下で細いノズルから噴出させ合成ゴム、各種樹脂などを高精度に切断、精密加工することができます。この機能は鉄筋コンクリート構造物のはつり工事にも利用されウォータージェット工法と呼ばれています。また、近年アスベスト飛散による環境汚染が社会問題となっておりますが、このアスベストを安全に、早く、確実に除去する方法としてイーコン工法が開発され、この除去作業に当社の水溶性高分子が利用されています。



医療や生化学分野で活用される

電気泳動ゲル

生化学の発展のなかで、正確なタンパク質、DNAの分離、解析は重要な研究テーマであり、電気泳動*ゲルは今後の医薬品の開発、病理の解析、或いは生物体の遺伝子情報、分類の研究等に欠かせない分析ツールとなっています。

■ 特徴

- 長期間の保存が可能のため、在庫管理が容易で、有効期限切れによる廃棄物の発生を抑制します。
- 大量生産による製造・流通コストの削減を実現しています。



電気泳動ゲルによるタンパク質の泳動像

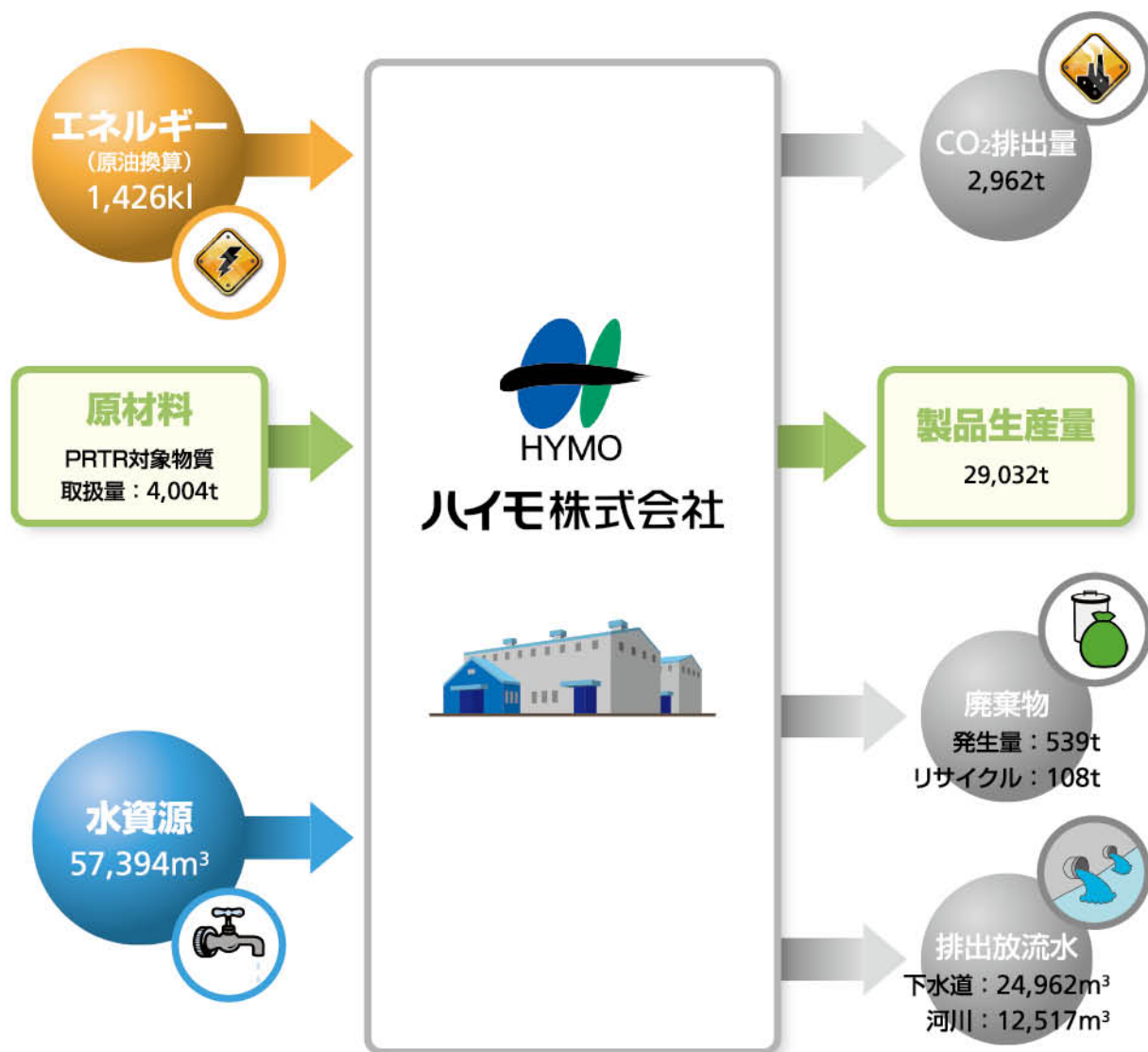
環境への責任

環境等に関するさまざまな改善活動を継続しています。



マテリアルバランス

生産部門



全社的な傾向として、エネルギーのほとんどは生産活動に投入されています。

生産部門におけるエネルギー消費量の変化は、概ね生産量の増減に同調しており、生産活動に伴い発生する廃棄物も他部門と比較して多くなっています。生産部門では環境マネジメントシステムISO14001の認証を取得し、このシステムの運用によって環境負荷や環境リスクの低減に取り組んでいます。

一方、営業部門では販売活動に伴う自動車移動で消費されるガソリン使用の比率が高くなっており、開発部門では、試作開発/各種分析に必要な熱源利用や、精密測定機器のメンテナンス/維持のため、床面積当りの電気使用量が多い傾向があります。

また、生産・営業・開発・管理の全部門において、廃棄物の減量化とリサイクルを推進しています。

環境への責任



環境関連データ

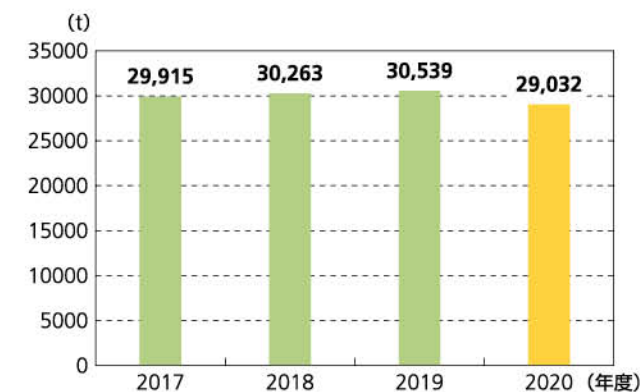
生産部門

生産量

2020年度は、コロナ禍による経済活動の抑制が影響して生産量の落ち込みが見られています。

※2019年度分より集計方法を見直した結果、過去の数値についても修正しております。

生産量

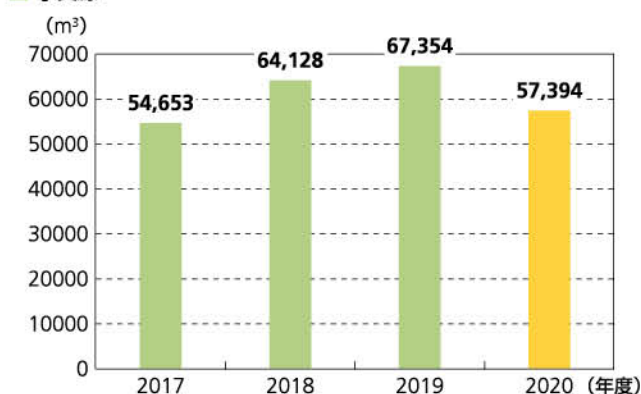


水資源投入量

製造工程において、設備や製品容器を洗浄するために多くの水を使用します。

2020年度は、生産量減少の影響と一部工程の合理化の効果によって、水資源投入量が減少しています。

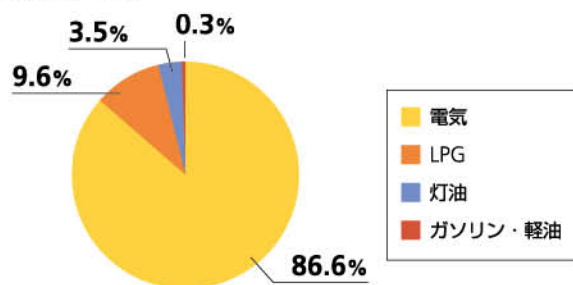
水資源



エネルギー投入量

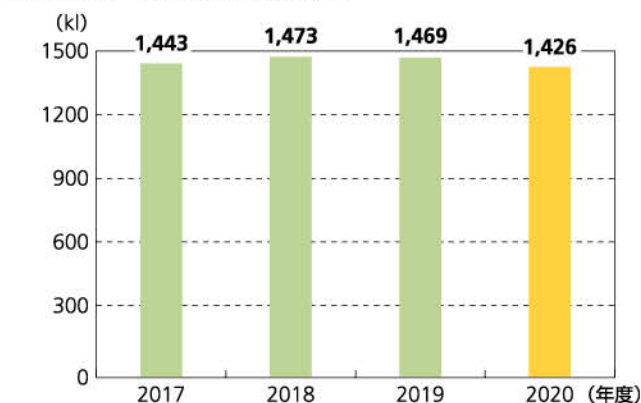
電力消費の削減を目的とした製造工程改善が奏功して、2020年度はエネルギー投入量の明らかな減少が見られています。引き続き製造工程改善の適用範囲を広げることで、更なる省エネ効果が期待できます。

エネルギー内訳



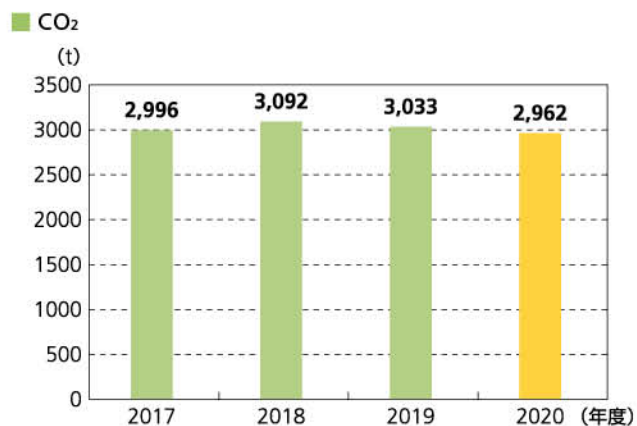
※2019年度分より集計方法を見直した結果、過去の数値についても修正しております。

エネルギー投入量推移 (原油換算)



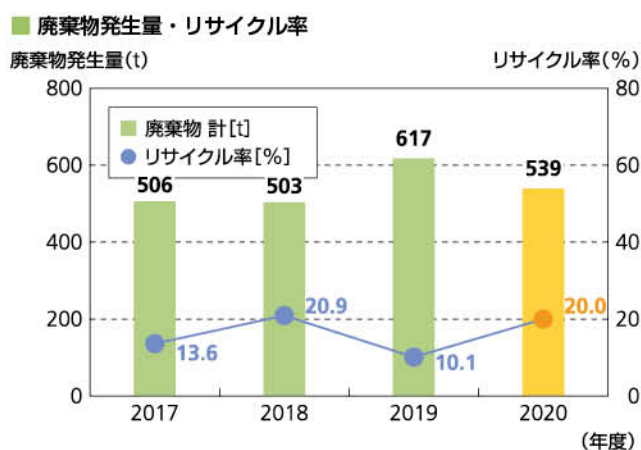
CO₂排出量

CO₂排出量は、エネルギー消費に概ね比例するため、エネルギー投入量(前ページ)に連動した推移となっています。



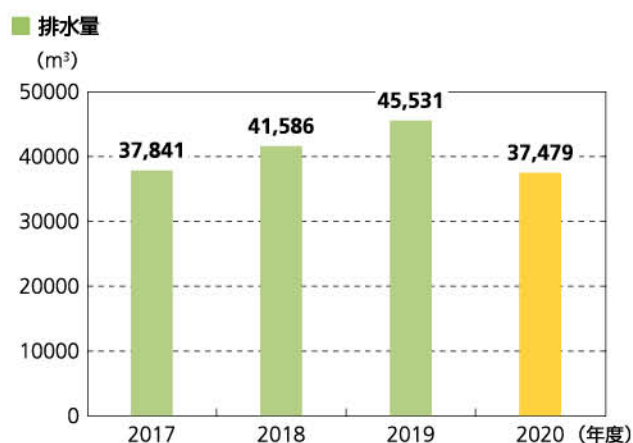
廃棄物発生量・リサイクル率

廃棄物発生量とリサイクル率は、建設廃材など一時的に発生する廃棄物の影響によって大きく変動します。そういった影響を除けば、廃棄物発生量は生産量に連動する挙動を示し、リサイクル率は一定値付近を推移する傾向にあります。



排水量

排水量は、水資源投入量(前ページ)と概ね連動して増減する傾向になります。



環境への責任



2020年度の目標と実績

環境安全活動状況

環境負荷低減に関するテーマでは、COD 負荷量について目標未達となりました。これは、処理能力向上を目的とした排水処理プロセスの変更によって、処理後の排水の特性が変化したことが数値に表れたものですが、法的基準値は大幅に下回っているため、総合的に見れば改善の方向に向かっていると捉えています。

その他のテーマでは概ね目標を達成していますが、地域の社会・環境活動への参加については、2020年度はコロナ禍の影響により実施できませんでした。

推進項目	テーマ	2020年度目標	2020年度実績	関連ページ
環境負荷低減	CO ₂ 削減	製造原単位あたり CO ₂ 排出量 2019年度比 1% 以上削減	2019年度比 2.9% 減少	11
		製造原単位あたり エネルギー使用量（電気・ガス・燃油） 2019年度比 1% 以上削減	2019年度比 2.9% 減少	10
		製造原単位あたり 廃棄物発生量（リサイクル分を除いた量） 2019年度比 3% 以上削減	2019年度比 18.3% 減少	11
	水生環境への負荷 低減	製造原単位あたり 排水のSS ^{*1} 負荷量 2019年度実績値未達	2019年度比 7.5% 減少	—
		製造原単位あたり 排水のCOD ^{*2} 負荷量 2019年度実績値未達	2019年度比 37.7% 増加	—
安全衛生	安全操業の推進	人身休業災害なし 人身無休災害なし	人身休業災害：0件 人身無休災害：3件	14
		安全教育の実施	従業員、委託業者への安全教育を実施	—
		事業所内の安全パトロールの実施	定期的な安全パトロールを実施 （1回／月など）	14
		SS ^{*3} 推進活動の実施	● 製造現場のSS状態のチェック・指導を実施（1回／週など） ● 毎日の朝礼にてSS啓発を実施	—
危機管理	防災体制の整備	防災訓練の実施	● 地震・火災などを想定した防災訓練を実施 ● 災害時の安否報告訓練を実施	14
社会との共存	社会活動への参加	地域の社会・環境活動への参加	実績なし（新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、外部と協力して行う環境活動等が全て中止となったため）	—
	環境情報の発信	HYMO CSR Reportの発行	発行を実施	—

用語集

^{*1}SS：Suspended Solidの略。浮遊物質。水中に浮遊している物質の量のこと。

^{*2}COD：Chemical Oxygen Demand（化学的酸素要求量）の略。有機汚濁物質による水質の汚れ度合いを示す数値のひとつ。

^{*3}SS：整理・整頓・清掃・清潔・躰の5項目。

社会・地域・従業員への責任

化学メーカーにおける「安全」は、社員にとっても、
また地域の皆様にとっても、最優先で取り組むべき課題です。



新型コロナウイルス感染症対策

一人ひとりができる対策を確実に

当社は新型コロナウイルス感染拡大に伴い、各種対策を講じてきました。ここでは部門ごとに実施した対策について、その一部をご紹介させていただきます。これからも、従業員の健康を守るため必要な対策を講じていきます。

生産部門

生産部門では多様な緊急事態の発生を想定し、業務担当者の複数化、接触を回避するような作業スペースの確保、想定期間在庫の確保を中心とした対策を進めてきました。

感染者発生の際に業務が停止してしまわないよう、グループごとに班分けを行い同じ業務を行う人が濃厚接触者にならないよう対応しました。また、ソーシャルディスタンスの確保を目的に食堂エリアや更衣室、作業デスク配置の見直しも実施しました。供給不足リスクを回避する為に業務上必要な資材の確保を行い、各営業所と緊急時の納品体制を共有しました。

健康管理においては各工場で非接触型体温測定器を導入し、出勤時に従業員の体温測定を継続実行しています。感染防止の為に消毒液やマスクも常備し、感染者が出た場合にすぐ消毒作業ができる準備を整えました。状況に応じて在宅勤務や時差出勤も活用し、感染予防対策の徹底に努めています。

営業部門

営業部門では、在宅勤務可能な従業員は原則「在宅勤務」とすることとしており、出勤を必要とする場合は、時差出勤等を活用しています。また、緊急事態宣言時の対応として、業務のリモートワーク化を推進し、原則出勤が必要だった部署においても出勤率40%で運営可能な体制を整えることができました。社外への感染拡大防止の取り組みとしては、外部集会への参加は原則禁止するほか、緊急事態宣言の対象地域を跨ぐ出張を原則禁止にしております。

研究開発部門

研究開発部門では、勤務体制、作業環境、社外・来客対応の3つの観点から対策を実施しました。

勤務体制については、「出社勤務」、「在宅勤務」、「休暇取得」をうまく組み合わせることや、時差出退勤、自家用車通勤を実施しました。また、倦怠感・発熱等で体調不調の場合、無理して出社はしないことを徹底しました。作業環境については、出社時に検温実施及び記録の記入、執務時の原則マスク着用を行うほか、出社時、外出戻り時、昼食前に必ず手洗い及びアルコール消毒を実施しています。また換気促進のため、窓、扉を開放し、その開放状態を維持するための表示をつけています。社外・来客対応としては、必要と考えられる社外への活動を厳選する等、外部との接触を極力回避するとともに、研究所への来場は必須案件のみで最小限にしています。

管理部門

管理部門では、全従業員の感染防止策として、時差出勤・在宅勤務制度を導入、各拠点へのアルコール消毒剤・検温用体温計の配付、従業員へのマスク配付、事務所会議室へのアクリルパーテーションの設置等を実施しました。発熱時等の出社基準を設定し、会社指示により休業した場合の休業手当の支払いについての労協協定を締結しました。また、取引先とのオンライン会議の頻度向上、採用活動におけるオンライン説明会・面接の導入を実施しました。



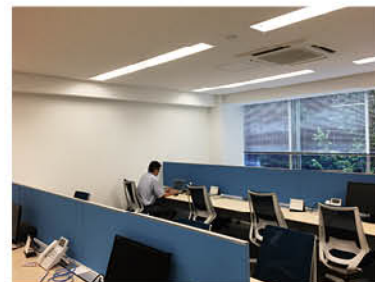
全会議室への
アクリルパーテーションの設置



検温の実施



ご来社いただいたお客様への検温や
アルコール消毒のお願い



在宅勤務により出社人数が減った
営業部門の様子

社会・地域・従業員への責任

責任ある企業として、地域社会への貢献や従業員満足度の増進に取り組んでいます。



安全な職場づくりを目指して

労働災害防止への取り組み

安全操業は生産活動の基本です。当社では全国の生産拠点で、労働災害防止の取り組みを進めています。事故・トラブル事例の情報共有や水平展開、安全パトロール等による職場環境の改善、災害防止のための定

期的な訓練等を通して、日々安全操業のレベルアップを図っています。更に2015年度から、BCP^{*}に基づく取り組みも合わせて行い、安全操業と供給責任の達成の両立を進めています。

災害件数

年度	休業災害	無休災害
2017	0	2
2018	0	2
2019	0	5
2020	0	3



各拠点で定期的に実施

防災・避難訓練 (2020年度)

9月1日の防災の日に合わせて各拠点で緊急事態発生時の避難経路および避難場所の確認を行いました。

さらに生産拠点では震度6強の地震が発生したとの想定で各拠点でテーマを決めて防災避難訓練を実施して万が一の事態に備えています。

青森工場では、災害発生後の場内状況確認時に原料の漏洩を発見したとの想定で場外への漏洩防止措置と原料回収方法を確認しました。

神奈川工場では、同じく災害発生後の場内状況確認時に火災を発見したとの想定で初期消火方法の訓練を行いました。

また、最新型地震体験車による震災体験を全員参加で行いました。この体験車は東日本大震災や阪神淡路大震災など過去に起

こった大地震に加えて、今後想定される様々な大地震の揺れ方を再現できることから現実に関わり得る震災がどのようなものか具体的なイメージを持つことができました。

山口工場では、災害発生後の場内状況確認時に配管に亀裂が生じ原料が漏洩しているとの想定で場外への漏洩措置と回収方法の確認を行いました。

また、設置している消火栓の動作確認およびノズルを使った放水訓練を行いました。

その他、BCPの一環として全社一斉の安否確認訓練を実施しました。

地震などの災害が発生時した際に、社員や家族の安否や事業所の被災状況を把握するために全従業員を対象に携帯アプリを活用した安否確認の訓練を実施しています。



① 青森工場 ② 神奈川工場 ③ 山口工場



従業員の意識向上

安全衛生活動、災害への対応

湘南研究センターでは、職場の安全と社員の健康の維持のため、安全衛生委員会を設置し毎月1回開催しています。同委員会は、安全衛生推進者を中心としたグループリーダーと輪番による従業員から構成され、大きな問題や懸念事項に対しセンター全体で解決に取り組んでいます。

日常の予防活動に重きをおいた労働安全衛生への取り組みとして、センター内の安全パトロールの実施、各グループのトラブル報告やヒヤリハット報告情報をセンター内で共有し、安全衛生の改善に努めています。

また、例年、同委員会では避難訓練や外部講習(救命・救急、交通事故防止)を企画し、安全に対する従業員の意識

向上に努めています。2020年度は、新型コロナウイルス状況下により例年のような活動はできませんでしたが、災害時を想定した緊急連絡網を利用した通報訓練を実施、実施後の反省点を踏まえて災害時の対応力向上を図っています。





CO₂の削減に向けて

特定事業者としての取り組み

当社にとって2020年度は特定事業者としての初年度となりました。エネルギー使用量の集計、今後の省エネ化への取り組みを記載した中長期及び定期報告書の作成・提出を遅滞無く行い、問題無く受理されています。現在、主要な製品において、従来の製造工程からエネルギー使用を大きく低減し

た工程への移行を進めており、その効果としてエネルギー消費原単位を約10%削減できることが確認できています。2021年度も、前年度からの取り組みを継続すると共に、その他工程や機器等でエネルギーロス改善の余地が無いか検討していく予定です。



ワーク・ライフ・バランスへの取り組み

有給休暇の取得状況

当社は従来より、有給休暇取得促進の観点から、入社初年度の取得可能日数増(13日間)や有給休暇の計画的付与日数増(1日増、計2日間)に取り組んでいました。2020年度の有給休暇の平均取得日数は11.3日、平均取得率は64.3%となり、2019年度と比較して、在宅勤務導入や旅

行目的の休暇取得減等の影響から、平均取得日数は0.5日減、平均取得率は5.7%減となりました。

これからも足元の状況変化等に柔軟に対応し、社員にとって有給休暇が取得しやすい環境作りに努めていきます。

■ 有給休暇の年間取得日数

年度	取得状況
2017	11.7日
2018	12.8日
2019	12.8日
2020	11.3日



2020年度は延べ6名が取得

育児休業制度、育児短時間勤務制度等

2020年度は、4名の女性社員と2名の男性社員が、育児のための勤務時間短縮、及びフレックス勤務制度を利用して就業し、育児と仕事の両立を図っています。2019年度に初めて男性社員が育児休業を取得し、それ以降、

男性社員のフレックス勤務制度の利用実績も増えています。男性社員や複数回利用者にとっても、利用しやすい制度となる様、これからも制度の更なる見直しを図っていきます。



従業員のメンタルヘルスケア

ハラスメント防止に関する取り組み

2020年度より、メンタルヘルスやハラスメント問題に関する社外相談窓口を設置し、従業員が無料で社外のカウンセラーに相談できる体制を構築しました。相談内容は仕事に関する悩みの他、プライベートな悩みも相談でき、電話相談やWEB面談で全国の事業所から全従業員が利用することが

できます。

また、社内におけるハラスメント防止の取り組みとして、管理職を対象に外部講師によるハラスメント研修を実施しました。



〒100-0005 東京都千代田区丸の内3丁目4番1号
TEL: 03-6212-3838 FAX: 03-6212-3833

社名コンセプト

社名「ハイモ(HYMO)」は、これからの当社の企業姿勢と、事業領域とを示しています。

企業姿勢とは、「高く優れた(High)技術によって、より多く(More)お客様の信頼に応えていくために行動、努力すること」です。

事業領域とは、「Hydro Modern Chemistry(水とニュー化学)」という新しい事業領域です。